

友氏首途

人



南の春

柳古



後



長月の一先位跡のこもり極漸とて
死すとてこもりて海舟の尾へ通るる
い地へ服部へ一子方の隠家とて
船中のこととて

いれりて同やねりて山島

南月みかこ京の文羽幸しく
好家とて

ちよもくさるるや新酒町



至江行るよき

三

白の松よらるる新し

二場の安らとあ

周成

了令や子里もるあ

柔月十日廿日あふりあはし何とあ
はたきとるわらふあはし陣あはあ
あはしあはしあはしあはしあはし
あはしあはしあはしあはしあはし

康し年一をう保取くや

横移

休古

書くまののさくらや

秋のゆらりとあらのあまのあ

春のゆらりとあらのあまのあ

胡洞

あはしあはしあはしあはしあはし

あはしあはしあはしあはしあはし

あはしあはしあはしあはしあはし

周防

高橋の御書に
御書に
御書に

高橋の御書に

書

七月の末長井名ら

高橋の御書に

高橋の御書に

高橋の御書に

高橋の御書に

高橋の御書に

想家行

后朝

思ひのこころはあまのこころとて

涙を流りしるをよそよそ

名月の昔と想ふよあまのわ

灯をともしあまのの寝

あまのこころはあまのこころとて

あまのこころはあまのこころとて

里紅

里紅

里紅

里紅

里紅

里紅

あまのこころはあまのこころとて

あまのこころはあまのこころとて

あまのこころはあまのこころとて

あまのこころはあまのこころとて

あまのこころはあまのこころとて

あまのこころはあまのこころとて

あまのこころはあまのこころとて

あまのこころはあまのこころとて

桐やうらうらのまゝの杉 文琳

河上のまはりのやまの磯のい 可白

ささきくさのたけのこ 山

うさぎのうさぎのうさぎ 山

白うさぎのうさぎのうさぎ 山

二つうさぎのうさぎのうさぎ 山

ささきくさのたけのこ 山

うさぎのうさぎのうさぎ 山

京都の年中

ささきくさのたけのこ 山

うさぎのうさぎのうさぎ 山

あともちねのうさぎのうさぎ 山

豊之石

ささきくさのたけのこ

うさぎのうさぎ

うさぎのうさぎのうさぎ

Handwritten text in cursive script, likely a continuation from the reverse side of the page.

お探さるゝお事と申すは申すに
お尋ねの事

御事

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a specific note.

之一お事と申すは申すに
お尋ねの事

Handwritten text in cursive script, forming the main body of the letter or document.

Handwritten text in cursive script, likely a closing or a separate note at the bottom of the page.

まのまのち神を信く

神地のつとめしきまをわたり

あふるらう

き枯や木をの月れを東面

神を月のまをみしつきの

まをみしつきの

風のふりかこはまをみ

清まよりら野上あり

あふらうし松根もほろや竹の園

短歌行

加十

山の名とまのみまをみ

まをみしつきの松の山あり

まをみしつきの内をのまをみ

まをみのまをみしつきの

私さくくちき飛も満の月

道奥の曙もさくぬ心

浪高し去年のさくらおかり

暮らりくくね夜山の

年かりてさくらさくら中紙

女中の中へ宿の石さり

曉鐘とかきりよしの夕暮

市街の風中よりおきり

二
四郎あは車下湖市のやき

清きさくさくあるのさく

暮らりくくね夜山の

暮らりくくね夜山の

暮らりくくね夜山の

暮らりくくね夜山の

暮らりくくね夜山の

暮らりくくね夜山の

くまのちと摘まのくくくも 行

被岸はくくくくくくく 羊

くくくくくくくくくくく 帛

くくくくくくくくくくく 帛

くくくくくくくくくくく 角

くくくくくくくくくくく 帛

くくくくくくくくくくく 羊

くくくくくくくくくくく 帛

くくくくくくくくくくく 帛

くくくくくくくくくくく 帛

くくくくくくくくくくく 帛

くくくくくくくくくくく 角

くくくくくくくくくくく 羊

くくくくくくくくくくく 柯

萬入とさきよ同あり 猫の意 加丁
 山崎のあしは 藤子や 蝶の神 松市
 みのつねとさきよや ちよは 胡蝶 龍角
 藤子のおつとちよと 新の身 赤河
 つまぢや 妙のつとちよより ちより 金羊
 山崎のちよとちよと ちよと ちよと 和吹
 下へおと 藤と ちよと ちよと のね 万重

早川もつとちよと ちよと の様うね 邦孝
 つとちよとちよと ちよと 山根 勉ら
 本巻もつとちよと ちよと ちよと ちよと ちよと

旅家文通

ちよとちよと ちよと ちよと ちよと 宇麻
 ちよと ちよとの ちよと ちよとの ちよと 治生
 ちよとの ちよと ちよと ちよと ちよと ちよと
 ちよとの ちよと ちよと ちよと ちよと ちよと

ねえと云くねえと云の事行と祝一梅一
さのさおとささよふの竹一在の梅一
さのさおとささよふの竹一在の梅一
さのさおとささよふの竹一在の梅一
さのさおとささよふの竹一在の梅一

鳥かたさつとささよふの竹一在の梅一

探頭ハ一平一鳴ク

ねえの梅梅もささよふの竹一在の梅一
さのさおとささよふの竹一在の梅一
さのさおとささよふの竹一在の梅一
さのさおとささよふの竹一在の梅一

さのさおとささよふの竹一在の梅一
さのさおとささよふの竹一在の梅一
さのさおとささよふの竹一在の梅一
さのさおとささよふの竹一在の梅一

梅のさおとささよふの竹一在の梅一

あつあつの中の一平一鳴ク

梅一鳴ク

梅一鳴ク

Handwritten text at the top of the page, possibly a title or header.

Handwritten text block, likely the beginning of a section.

Handwritten text block, continuing the content.

Handwritten text block, possibly a list or series of items.

Handwritten text block, continuing the content.

Handwritten text block, possibly a list or series of items.

Handwritten text block, continuing the content.

Handwritten text block, continuing the content.

Handwritten text block, continuing the content.

Handwritten text block, continuing the content.

Handwritten text block, continuing the content.

Handwritten text block, continuing the content.

Handwritten text block, continuing the content.

Handwritten text block, continuing the content.

Handwritten text block, continuing the content.

Handwritten text block, continuing the content.

Handwritten text block, continuing the content.

摺紙のちぎし一冊も新集者 増

内装のちぎし一冊も新集者 増

お筆の清集のちぎし一冊も新集者 増

煮きんちぎしのちぎし一冊も新集者 増

おちぎし一冊も新集者 増

る士のちぎし一冊も新集者 増

え侍のちぎし一冊も新集者 増

煮きんちぎし一冊も新集者 増

ちぎし一冊も新集者 増

ちぎし一冊も新集者 増

ちぎし一冊も新集者 増

ちぎし一冊も新集者 増

ちぎし一冊も新集者 増

ちぎし一冊も新集者 増

ちぎし一冊も新集者 増

ちぎし一冊も新集者 増

七ツノ標頭

白仕上

かきしりやきしりしりのかせ文 黒

柳浦

かきあし柳くくかきむく 黒

文字圓

旗のしりしりのけりやあきり 黒

赤ら雲

くしりしりや赤ら雲の馬 黒

取崎

取崎やしりしりしりしりしり 黒

長河川

長河川や赤ら雲の馬 黒

柳浦

かきしりしりしりしりしりしり 黒

取崎

かきしりしりしりしりしりしり 黒

川のほとりよ萩のよのよや隣の物
越生寺修
徳泉

しほやふりあてしるまの心
高里

くよは木のこけやほのこ
長美

月とこやまの葉の後のらまこ
里畦

しほやまのこまのまの
依以

村とまのほれをまのらま
写柳

名かこまのわやまの稿らま
飛松

...

諸子の竹林とてまこ

諸子の松たまこ

家物

まよ目のまこまのわや隣の物

池えかたれまの暇ま
里江

る別

杜よまのまこまのらま

船中

船中よりまの
まのまこま

娘崎の浦 雲をくぐりて 可

雲白くしりてあけし海に 雲に白くあけし海に
舟のうきをたはしりてあけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて

寝室のちかや 抱くく日影と

あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて

橋の邊と 雲をくぐりて 可

あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて

名月の帆をよみ 雲をくぐりて 可

あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて
あけし海に 舟のうきをたはしりて

松葉や 秋の山に 二年あり

重頼上人の御遺言

重頼上人の御遺言

長宗行

大徳運中

之位

旅の標の整もろやけ草

汲あゝ山道の偏も白雲

下の庵車と橋も月ごと

孫と狸と半はてやね

いぢのあゝも女界とまふ

お寄ふよやく世の月ごと

おののこしとさうのひ

一とるも竹の梅の松の葉

おののこしとさうのひ

おののこしとさうのひ

おののこしとさうのひ

おののこしとさうのひ

おののこしとさうのひ

おののこしとさうのひ

池邊のしらさぎのつらね

花柳の海とほしくはな

しをたのむるはな

あまのたのむるはな

たのむるはな

車よとほしくはな

湯をたのむるはな

なほとほしくはな

あまのたのむるはな

きよとほしくはな

新子とほしくはな

花柳の海とほしくはな

あまのたのむるはな

浦田とほしくはな

あまのたのむるはな

池のしらさぎのつらね

釋名のこゝろにまゝのがけぬき

自新のこゝろにまゝのけむり

まゝのけむりまゝのけむりまゝのけむり

母のこゝろにまゝのけむり

風のまゝにまゝのけむり

まゝのけむりまゝのけむり

まゝのけむりまゝのけむり

鳥帽子のまゝにまゝのけむり

本

煎

まゝのけむりまゝのけむり

まゝのけむりまゝのけむり

まゝのけむりまゝのけむりキハダ棉河

まゝのけむりまゝのけむり

まゝのけむりまゝのけむり

まゝのけむりまゝのけむり

まゝのけむりまゝのけむり

まゝのけむりまゝのけむり

老下
天龍解の由りと表流下しむる
も達の言と侍ち候哉

まきのまきしちりく、物取しよ 隆下

歸庵

七月の中はねの天龍園に歸り
かゝるうらなは物取もあつたといふ
連中の物取りは、おもしろく、二と名を
ふくむと侍りて

ねしちまよはるる善ふし一まふし

白御堂

小方連中

ちまよはる白かゝりて無事 退く

ちまよはるまきしちりく、物取しよ

ちまよはるまきしちりく、物取しよ

ちまよはるまきしちりく、物取しよ

ちまよはるまきしちりく、物取しよ

ちまよはるまきしちりく、物取しよ

ものゝけなきよのかりよは猿孫の 乙恋

こころあはれいづれもまのこころを 信り

と月とあはれいづれもまのこころを 恋ひ

山縣連中

あまのこころのこころを

こころのこころを

はやくいづれあはれよは小ね 衣冠

猿の神と御草の白ひき 衣冠

猿の神と御草の白ひき 衣冠

月とあはれいづれもまのこころを 六巻

氣法

せら連中

猿の神と御草の白ひき 有琴

あまのこころのこころを 仲志

あまのこころのこころを ね草

あまのこころのこころを 琴の

まらふ〜二幸一うららぬおの 仲山

まらふ〜二幸一うららぬおの月 梨香

まらふ〜二幸一うららぬおの文可

まらふ〜二幸一うららぬおの公杯

岐阜一連中

馬原二百里の向うと信州く平あわむ
唐人の言のお話よ自り〜

長崎のさやけや松の唐錦 臺平

老頭酒者

其酒

中酒のさよら〜打ぬふ 孫周

酒よいり〜酔りねのさる 不禹

酒よけや古酒と新酒の二とち 松二

酒よけよ〜酒よけやまきのむ 松古

酒よけよ〜酒よけやまきのむ 松古

酒よけよ〜酒よけやまきのむ 松古

其有

星のくもる月ふる 辛卯の 杜鵑

伊の心 鶯あはれまゝの 鶯の 鶯の 鶯の

いとくらしくして 斬れぬまゝ 鶯の

まらま切よ 枝の 心ゆく 鶯の 正卯

いとくま 鶯の 心ゆく 鶯の 鶯の 鶯の

あはれま 鶯の 心ゆく 鶯の 鶯の 鶯の

新加納道中

草木ほよる 鶯の 心ゆく 鶯の 鶯の

海よりあく日 鶯の 心ゆく 鶯の 鶯の

ふよ川よ 鶯の 心ゆく 鶯の 鶯の

海くの 鶯の 心ゆく 鶯の 鶯の

三根連中

若鷲屋の 鶯の 心ゆく 鶯の 鶯の

ついでに文藝一もあつていふ所のそなた
おとと倦てから遊一同志のくくあのかく
うまの顔と持ちて七連のそなたと持ちぬ

山雀

山雀の家をきかぬ旅もさう
まゝ

ふたふ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
桐子

序

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝ

麻

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝ

あゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝ

あゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝ

福の山

甲の山より福の山へはねを月

道白

しは山へ福の山へはねを月

即上高

カサの山へはねを月

不破冥

嘉の山へはねを月

長心

七歳とてうらやまの山

是道里

是道里の山へはねを月

是道里

是道里の山へはねを月

諸國文通

樹の葉よわらぬ風中

新古歌
東郷

繁茂も人よゆきく踊る

府中
茂枝

心とゆき舞も自もる様ふ

詢的

鳥のまゝのまゝや文もふおのれ

柳枝

まゝくも思わとゆくまゝに

詢古
去根

碎て落しよ不化と心の如ふ

玄駁

子とあかく園も心踏ゆよけ

柳遠

竹の子に仲らるゆわき子供

有施

伽藍入り生舞をよふ葉の葉

水巴

元来のまゝなやまゝの所

葉地

よくくも雨もまゝのまゝに

葉藩

女も房も隠れもなや河原け

新泉

葉もやまやまのまゝに

根前

心のまゝにまゝにまゝに

まゝに

杉並の... 司部

... 文嘯

... 誠中石動 方堅

... 雲江

... 柳隆

... 壺可

... 可由

... 眉泉

... 清信

... 穂洞

... 車種

... 廣水

... 時文

... 孤東

... 島帆

... 一葉

隠あけもあけを柳かぶる人 風吹

海士人の伊波やちまの巻 古里叔連中 藤証

かゝ花の中よ小まの柳を 柳里

指く花とあんであふふ 白雄

あふふのそふとあふふのそ 子門

あふふのそふとあふふのそ 柳法師 穆士

あふふのそふとあふふのそ 柳法師 九候

あふふのそふとあふふのそ 柳法師 柳亭

あふふのそふとあふふのそ 柳法師 可者

あふふのそふとあふふのそ 柳法師 張意

あふふのそふとあふふのそ 柳法師 甚石

あふふのそふとあふふのそ 柳法師 五方

あふふのそふとあふふのそ 柳法師 若島

あふふのそふとあふふのそ 柳法師 一舟

あふふのそふとあふふのそ 柳法師 琥珀

あふふのそふとあふふのそ 柳法師 白洲

お借しの中へゆくはしよふよ 園由

鹽人ものゆやにけり 我ら

榮ふあかりよ 可長

お起のさやに 可哉

まゝるやに 心布

ちいさな 己子

振動の 後印

古くは 晩涼

角とさる市と 杜亮

さくらや 小松

やうと 互朝

舞臺の 二松

おのり 欽和

おのり 巴次

おのり 石言

おのり 若松

あまも一ねのほのちやえんれ 千枝 林江

きの目もちくはらやまの梅 二山 二川

きやねや梅のほ神のむさ 魚住 侍彦

漕うやう梅りやねは磯るき 方神

名月やあふらふとる梅 七光 枝中

物ゆもちくはちあや小六月 二日市 信柳

親ん園よりあつて半帳小 如 求己

卯のむやまをてらの又まひ 如 松守

うしとくはくはく 柳系 山平

判額の海 紙接糸黒川 九村

あまのちまうとらま 柳里

まほの月と流 今川 貞虎

あまの 之田 卷年

卯の 老得 崎洲

と神の 吾未圃

神農 世夜

夜と掃日私とあねとさうふ 山平

照る下と下戸のいんまわらぬ 英多

多町や海京橋のほいそ 英多

鳥部や入あまらねあ 英多

大極と清くま 芦錐

かき舞ふ極るま 也柳

あまやま 赤雲

流佛や耳ふ 柳川 柳樓



あまはく 水島

蓮と 水島

あま 水島

三休の 水島

山 水島

あま 水島

あま 水島

あま 水島

笑の産も服け燕の産りし

中津川 赤井

世の中心も屏風の衣あり離れ寄

中津川 藤生

世の中とてくらやまの夜の日八分

小野 推巴

さふらむのちかやまのしり姿

小野 随凡



京と竹二集
楊屋伝巻衝和

青牛舍

翠古